

Swivel と ADFS の連携で Office365 他クラウド利用に二要素認証を適用

今後は SAP 等他アプリケーションとの連携を行い、
全社の認証インフラとして活用



日立造船株式会社様（以下日立造船様）の創業は1881（明治14）年、英国人 E. H. ハンター氏が創立した個人経営の大阪鉄工所が始まりです。その後日本初の洋式捕鯨船や日本初のタンカーを建造するなどの実績を残し、改組や社名変更を経て現在に至っています。今では造船事業は行っていないが、ごみ焼却発電施設に代表される「環境・グリーンエネルギー」の分野や、人々の生活を支える「社会インフラ整備と防災システム」など、活動の場はさまざまな分野に広がっています。

社名から受けるイメージは伝統的企業というもので、自らの社風についても「まじめに課題解決にチャレンジする会社」と説明するほどの保守的な印象がありますが、その一方でITの活用に関しては非常に先進的な取り組みをされていることが知られています。

他社製 OTP からの乗り換え

日立造船様が最初に Swivel の二要素認証ソリューションを導入したのは2014年で、日本では最初



東京二十三区清掃一部事務組合
杉並清掃工場



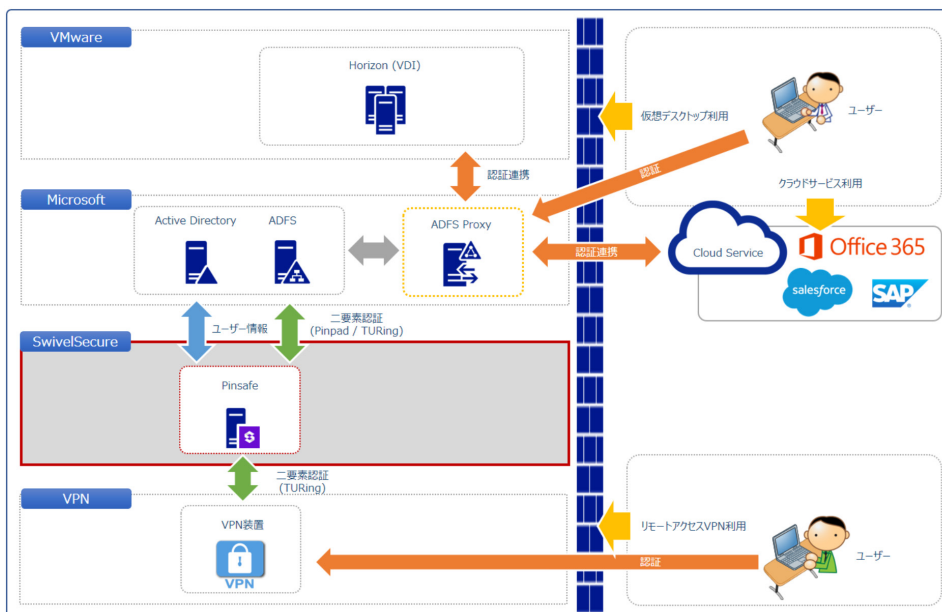
MSF 型海水淡水化プラント (UAE)

期のユーザーです。それまでも他社製のワンタイムパスワード（OTP）を利用して外部からのVPNアクセスの認証に使っていましたが、ライセンス費用が高額だったことに加え、使い勝手も良くなかったということです。

日立造船株式会社 ICT 推進本部 ICT 情報システム部 ICT システム基盤グループ長の磯部 直哉 氏は、「当時使っていた OTP は、あらかじめ登録したパターンを使ってマトリクス表から OTP を読み取る方式だったのですが、パターンを覚えて正確に読み取るのが難しく、ユーザーがログインに失敗するケースが多発していました。」と当時を振り返ります。そのたびに問い合わせがあり、サポートも大変だったということです。

当時既に、翌年（2015 年）に Office365 を全社導入することが決定しており、ユーザー数が大幅に増えた場合のサポート負荷や導入コストを考えると、安価で使いやすい認証ソリューションへの乗り換えが必要でした。

適切なソリューションを探していたところへ、ネットワンシステムズ株式会社（以下ネットワン様）から Swivel を紹介されたのです。



まずはVPNとWebメールの認証に適用

このとき、利用ユーザ数は少ないながらも、社外からアクセスできるWebメールの運用も行っていたのですが、これには別のOTPが使われていました。

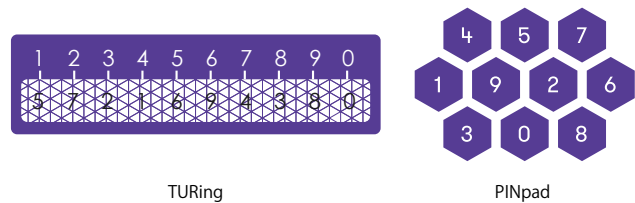
Swivelはライセンス費用が安価で、使い方が簡単なことに加え、VPNもWebメールもサポートできること、そしてさらに、当時既にOffice365との統合実績があったことから、将来的にも単一のソリューションで様々なアプリケーションやサービスに柔軟に対応できることが大きな魅力で、導入はすぐに決まりました。

日立造船様では導入当時からTURingとPINpadを使っていますが、日立造船株式会社 ICT 推進本部 ICT 情報システム部 ICT システム基盤グループの末岡 健二氏は「数桁の数字を覚えておくだけで高度なセキュリティが実現できるのが良いです。PINpadなどは説明も要らないくらいで、ユーザの操作間違いは確実に減りました。」

先進性を支えるネットワーク

当時導入を担当したネットワークシステムズ株式会社西日本事業本部第2営業部技術第3チームマネージャーの庄子大成氏は、「SwivelはWeb上のナレッジベースが非常に充実しており、ネットワーク内に検証環境を作るような場合でも、ほとんどトラブル無く行う事ができました。」と言います。

ただ、2015年にOffice365との連携を行った際には、困ったことがあったと言います。「当時日立造船様では、MicrosoftのADFSの最新版(ADFS3)を利用す



る予定だったのですが、あまりに新しい技術のため、連携についての記載がナレッジベースにありませんでした。旧バージョン(ADFS2)の情報などを参考にしながらテストしたのですが、稼働した直後くらいにナレッジベースにアップされました。ただこれは、Swivelが遅かったのでは無く、日立造船様が早すぎたということかと思います。」ネットワーク様の技術力が、日立造船様の先進性を支えていることがわかるエピソードです。

SalesforceやVDI、SAPとも連携

2014年に4,000ユーザほどでスタートしましたが、Office365ユーザが追加されて現在は6,000ユーザを超えています。この間、ADFSを通じてVMwareのVDIやSalesforceとSwivelの連携も実現しました。VMware Horizonとの連携(2016年)も日本では最も早く、世界でもまだ数件しか実績が無かった時期だったと言います。

現在SAPとの連携について検証を行っており、これが完了するとユーザ数はさらに増える予定です。SwivelとADFSが連携することで、様々なアプリケーションやサービスに使いやすくセキュアな二要素認証を簡単に適用する事ができます。日立造船様のSwivelの利用は、これからも広がって行きそうです。

日立造船株式会社 会社概要

創業	1881(明治14)年4月1日
代表者	取締役会長兼社長 谷所 敬
資本金	45,442,365,005 円 (2017 年 9 月 30 日現在)
所在地	大阪市住之江区南港北1丁目7番89号
売上高	<連結> 399,331 百万円 (2017 年 3 月期)
従業員数	<連結> 10,300 名 (2017 年 9 月 30 日現在)
事業内容	環境保全装置、プラント、水処理装置、機械、プロセス機器、インフラ設備、防災システム、精密機械等の設計、製作等



(写真左から)日立造船株式会社 ICT 推進本部 情報システム部 システム基盤グループ 主任技師 末岡 健二氏、システム基盤グループ長 磯部 直哉氏、ネットワークシステムズ株式会社 西日本事業本部 技術第3チーム マネージャー 庄子大成氏



セキュリティストリングス株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町6番地 相模屋本社ビル 7F
Email: sales@securitystrings.com
URL: http://www.securitystrings.com

お問い合わせ

©2017 Security Strings 本カタログに記載の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

本カタログに記載されている情報は2017年12月現在のものであり、製品仕様および機能は予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。